

第39回全国豊かな海づくり大会秋田県準備委員会

第2回専門部会

日時 平成29年3月24日（金）
午後1時半～
場所 秋田総合庁舎6階606会議室

次 第

1 開会

2 秋田県農林水産部水産漁港課長あいさつ

3 報告事項

- (1) 第1回専門部会の協議内容（議事抄録）について
- (2) 先催県の参加態様（県内外内訳等）について
- (3) 平成29年度の大会予算について

4 協議事項

- (1) 第39回全国豊かな海づくり大会基本構想（素案）について
- (2) 大会テーマ等の公募方針（案）について
- (3) 開催候補地の絞り込み（案）について

5 閉会

【配付資料】

- 資料1：第1回専門部会協議内容（議事抄録）
- 資料2：先催県の参加態様（県内外内訳）
- 資料3：平成29年度の大会予算
- 資料4：第39回全国豊かな海づくり大会基本構想（素案）
- 資料5：大会テーマ等の公募方針（案）
- 資料6：開催候補地絞り込み方針（案）

専門部会出席者名簿

(敬称略)

	所 属	職 名	氏 名	備 考
部会員	秋田県立大学	理事	佐々木 誠	
	秋田県立大学	教授	岡野 桂樹	
	秋田公立美術大学	助教	菅原 香織	
	(株)秋田魁新報社	編集局制作センター長	藤原 謙	
	県漁協天王支所	漁業者	伊藤 加寿子	
	小松ひとみ写真事務所	写真家	小松 ひとみ	欠席

○事務局

水産漁港課	課 長	千葉俊成
	主幹(兼)班長	石井公人
	副主幹	三浦信昭
	技 師	高橋佳奈

平成29年2月9日(木) (第1回専門部会 意見交換 [要旨])

質問者	質問	事務局回答
部会員	<p>【大会概要について】</p> <p>関連行事で出店されるブース数はどれくらいか。市町村毎にブース出店するのか。</p> <p>【大会テーマ募集について】</p> <p>大会テーマの募集時期は何月頃から何月頃までか。</p> <p>先催県の応募総数は。また、審査結果はいつ発表するのか。</p> <p>入賞者には3万円程度の記念品を贈呈するとあるが、何か魚などの水産品を贈るのか。</p> <p>【大会キヤラクターについて】</p> <p>大会キヤラクターに「んだっち」を起用することは決定事項なのか。キヤラクターデザインに関する一般公募はしないのか。</p> <p>「んだっち」を使用するとしても、大会用にアレンジしてもいいのか。</p>	<p>県内全市町村が出店する訳ではない。1つの関連行事会場につき出店ブースは数十程度で、飲食の出店やパネル展示等のブースが出店される。会場数は、各県によって異なり、富山県大会は1会場、山形県大会は3会場(酒田市・鶴岡市・遊佐市)。</p> <p>2回目の準備委員会を3～4月頃の開催を予定しているの、その後には募集を開始する予定である。先催県では、募集期間を2ヵ月程度設けている。学校等への周知期間を考えると、本県も2ヵ月程度とする方向で募集し、大会実行委員会の開催時に公表したい。</p> <p>山形県では約2,400、富山県では約2,600、沖縄県では約500であり、都道府県によってばらつきがある。本県については、県内在住者を対象に公募する予定で検討している。</p> <p>高校生以下が入賞した場合は、図書券等の贈呈を考えている。また、副賞として県産水産加工品等を検討している。</p> <p>色々なキヤラクターを使用すると、秋田県の統一イメージを普及する上でかえって混乱すると思われるため、県の事務局サイドとしては「んだっち」の使用を基本としていたいと考えている。来年度本県で開催される「ねんりんピック」では、「んだっち」に旗を持たせる形式で起用しており、多少のアレンジは可能である。「んだっち」の使用については、キヤラの所管部局と検討していきたい。</p>

質問者	質問・意見等	事務局回答
部会員	<p>【開催候補地の選定について】</p> <p>専門部会の役割についてだが、今回は選定条件等候補地の選定に着手し、2回目の専門部会で候補地の絞り込みを行って、その後、2回目の準備委員会で報告するということでもいいのか。</p>	<p>そのように考えている。</p>
"	<p>開催候補地の選定条件案の説明を受けたが、全てを満たす場所があるのか心配。次回の部会では、条件の優先順位を絞って候補地の素案を提示してほしい。</p>	<p>次回までに、優先順位に基づき選定条件と、県内の沿岸市町の会場候補地(会館等公共施設と港湾・果管理海面漁港)の絞り込み案について、表にまとめたたたき台を作成しご審議いただきたいと考えている。</p>
"	<p>各会場について、アクセスのし易さなどの程度の距離が望ましいのか、その点についても絞り込んでほしい。</p>	<p>本日の皆様のご意見を踏まえて、次回資料提示したい。次回開催までに気づいた点があれば、事務局にご連絡いただきたい。</p>
"	<p>沿海部の関係市町の意見も聞くべきだと思う。その結果についても、次回以降、提示いただきたい。</p>	<p>承知した。</p>
"	<p>【その他】</p> <p>招待者について、県内者と県外者の割合は。</p>	<p>正確な数字は別としてSVIPや出演者等の関係者以外では、県外が6～7割前後である。例年、各都道府県からの推薦に基づき、水産関係団体からの出席者が多い。SVIPは式典及び放流の両行事に出席されるが、その他招待者は、どちらかの参加となる。</p>
"	<p>会場警備の体制について、担当エリアの役割分担など、事前に分かるものか。</p>	<p>類似事例の大会等からいうと、警備上の問題があると思われるので、事前に把握できる体制にはなっていないと思われる。</p>

海づくり大会の参加態様

	式典行事				放流行事				計					
	登壇者、受賞者(随行者含む)		同左以外		登壇者、受賞者(随行者含む)		同左以外		登壇者、受賞者(随行者含む)		同左以外		計	
	計	同左以外	計	同左以外	計	同左以外	計	同左以外	計	同左以外	計	同左以外	計	同左以外
H28山形大会	県内	151	145	296	53	130	183	204	275	479	(35%)	275	(32%)	479
	県外	186	431	617	118	146	264	304	577	882	(65%)	577	(68%)	882
	計	337	576	913	171	276	447	508	852	1,361	(100%)	852	(100%)	1,361
H27富山大会	県内	170	109	279	163	158	321	333	267	600	(40%)	267	(30%)	600
	県外	193	466	659	69	165	234	262	631	894	(60%)	631	(70%)	894
	計	363	575	938	232	323	555	595	898	1,494	(100%)	898	(100%)	1,494
計	県内	321	254	575	216	288	504	537	542	1,079	(38%)	542	(31%)	1,079
	県外	379	897	1,276	187	311	498	566	1,208	1,775	(62%)	1,208	(69%)	1,775
	計	700	1,151	1,851	403	599	1,002	1,103	1,750	2,854	(100%)	1,750	(100%)	2,854

平成29年度の大会予算

平成31年度「第39回全国豊かな海づくり大会」の本県開催に向けて、大会準備を円滑に推進するとともに、県内外での機運醸成を図るため、実行委員会の運営や稚魚のリレー放流等を実施する。

1 事業内容

(1) 実行委員会運営事業

知事を会長とする実行委員会を設立し、本大会に向けた準備を円滑に推進する。

ア 事業主体 県

イ 実施内容 実行委員会の運営
水産業PR映像・冊子の制作
福岡県等先催県の調査と秋田大会のPR

(2) 県民総合リレー放流事業

本県の海面及び内水面のつくり育てる漁業を推進するため、沿岸及び河川流域の市町村で、県民参加型による種苗の放流を実施する。

ア 実施内容 放流種苗の購入
放流イベントの開催支援（8箇所）

イ 対象経費 種苗購入費、イベント開催補助

ウ 補助率 1箇所当たり100千円（定額）

2 事業主体

(1)：県

(2)：市町村、秋田県漁協、内水面漁協等

3 予算額

12,300千円（繰入金〔地域活性化対策基金〕 12,300千円）

(1)：10,190千円	旅費、報償費等	2,296千円
	需用費	3,294千円
	委託料	4,600千円
(2)：2,110千円	需用費	1,310千円
	負担金補助及び交付金	800千円

4 事業年度

平成29～31年度

第39回全国豊かな海づくり大会 基本構想（素案）

1 開催意義

（1）秋田県の実然環境と水産業

秋田県は、東北の日本海側に位置し、北の県境に世界自然遺産の白神山地、南の県境に東北第二の高峰の鳥海山、県中央部に樺の群生地北限である男鹿半島と、多様な自然環境を形成しており、海岸部には北部に米代川、中央部に雄物川、南部に子吉川の三大河川がつくり出した広大な平野が広がっています。こうした豊かな自然に育まれた秋田県の海は、日本海に注ぐ河川や鳥海山の伏流水を通して森林からの豊富な栄養がもたらされています。

水産業では、底びき網、定置網、刺し網等の漁業が営まれており、海面においてハタハタ、マダイ、マダラ、スルメイカ、ズワイガニなど、内水面において八郎湖に代表されるワカサギ、シラウオなど、季節を映す約150種類以上の魚介類が水揚げされています。しかし、近年は、漁場環境の変化や水産資源の減少、漁業就業者の減少と高齢化、さらに消費者の魚離れなど、水産業を取り巻く状況は年々厳しくなっており、こうした課題を克服するため、官民一体となってつくり育てる漁業を一層推進するとともに、県産水産物の高付加価値化やブランド化等に取り組んでいるところです。

本県における「全国豊かな海づくり大会」の開催は、多様な自然環境と豊かな漁場に恵まれた本県の水産業について、全国の皆様にご知っていただくことにより、魅力度の向上や交流人口の増加がもたらされ、漁業・漁村の活性化を図る絶好の機会となります。

（2）豊かな海を育む森と河川・湖沼

東の県境を奥羽山脈と那須火山帯が重なるように縦走し、八幡平、駒ヶ岳、栗駒山と豊かな森が、米代川や雄物川、子吉川など、美しく豊かな川を生み出し、多くの生き物を産み育み、そして、豊かな日本海につながります。河川に遡上するサケ、サクラマスをはじめ、アユ、イワナ、ヤマメ、モクズガニ等多くの生き物が豊かな森の恩恵を受けて生息しており、漁業者は、有用水産物の増殖や漁場環境の保全・管理を通じて、資源の持続的利用を図っています。

また、青森県との県境に十和田湖、雄物川水系の上流部に田沢湖、男鹿半島の東側に八郎湖を有しており、この三湖を舞台とした壮大な「秋田龍神伝説」は、現在も語り継がれています。十和田湖ではヒメマス、八郎湖ではワカサギが漁業の主要な対象種となっており、田沢湖においても以前は、本県固有種であるクニマスの漁獲が行われていました。

本大会の開催は、森と河川・湖沼から海に至るまでの自然環境の保全とそこに育まれる生命の大切さを改めて紹介することにより、それらの取組を推進する契機となります。

（3）秋田県の海にまつわる歴史・食文化の魅力

秋田県沿岸の豊富な魚介類は、私たちの食生活に潤いを与え、独特の食文化が生まれました。特に、県の魚であり全国第1位の漁獲量を誇るハタハタによって、しょつつるや飯ずし等の伝統食が育まれてきました。ハタハタを神仏から賜った「神の魚」とする精神と、ナマハゲに代表される来訪神信仰について、県では日本遺産の認定を目指しています。

また、河川の舟運が発達し北前船交易が盛んになった江戸時代には、河川から海へと至る交通路により、米や日本酒、秋田杉、銀・銅等の鉱山資源など、秋田の特産物が上方に運ばれ、相互に経済と文化が行き交い、本県独自の歴史文化が生み出されてきました。

本大会の開催は、こうした、海や川により生まれ、長年に亘り培われてきた本県の魅力を、全国に向けて発信する機会となります。

2 基本理念

秋田県の特徴ある水産物や農山漁村地域の環境・歴史文化等の魅力を全国に発信し、観光との連携による水産業の振興と地域の活性化を図ります。

3 基本方針

(1) 水産業と地域の活性化

漁業者の所得向上や漁村の活性化など、本県水産業の現状と課題をしっかりと踏まえ、「水産資源の維持・増大」「水産加工品の開発」「漁業後継者の育成・確保」等に取り組み、秋田県の水産業の振興と地域活性化につながる大会とします。

(2) つくり育てる漁業の進化・発展

本大会を契機に、平成30年度リニューアルオープン予定の県水産振興センター栽培漁業施設を核として、県の魚ハタハタの資源管理等も包含する「つくり育てる漁業」を進化・発展させていく大会とします。

(3) 観光と水産との融合

県の総合力を発揮できる観光との融合を図りながら、本県の歴史に育まれた魚食・漁村文化、豊かで美しい自然環境等を、未来へと継承する大会とします。

(4) 豊かな自然環境の保全

豊かな自然環境に深く感謝しながら、豊かな海につながる森づくりや川づくり等の取組を継続的に展開し、海や川の恵み等を守り育てていく気持ちを次世代につなげる大会とします。

4 大会の概要

(1) 名 称 第39回全国豊かな海づくり大会 ～あきた大会～

(2) 主 催 豊かな海づくり大会推進委員会
第39回全国豊かな海づくり大会秋田県実行委員会

(3) 開催時期 平成31年秋季（土曜・日曜日の2日間）

(4) 開催場所（未定）

○ 式 典 行 事：候補地 沿岸部公的文化施設等

○ 海上歓迎・放流行事：候補地 港湾又は漁港

(5) 行事内容

① 式典行事

資源管理や漁場保全等に功績のあった団体の表彰、最優秀作文の発表、漁業後継者の決意表明や大会決議等を行うほか、本県の特色ある伝統芸能の披露します。

② 海上歓迎・放流行事

本県の主要な栽培魚種の稚魚放流を行うとともに、漁業関係者等の協力を得て、海上歓迎行事を行います。

③ 歓迎レセプション

大会関係者を招待して歓迎レセプションを行い、本県の豊かな農林水産物の食材等によるおもてなしを行います。

④ 関連行事

県内外の参加者に、大会を記念した絵画や書道コンクール優秀作品の展示、本県の水産業や環境保全の取組を紹介する企画展示等を行うとともに、県産農林水産物や加工品の紹介や販売など、本県の多彩な魅力をアピールします。

(6) 大会テーマ 公募により決定

(7) 大会キャラクター 県のPRキャラクター「んだッチ」とし、コスチュームデザインを公募

大会テーマ等の公募方針について（案）

- 1 趣 旨 平成31年に秋田県で開催する第39回全国豊かな海づくり大会を広く県内に周知するため、大会テーマ及びキャラクターコスチュームデザインを募集する。
- 2 主 催 第39回全国豊かな海づくり大会秋田県実行委員会
- 3 募集内容
- ①大会テーマ
大会の開催目的を簡潔に表現した覚えやすい標語・スローガン
※ 全国大会の位置づけから、「秋田」「東北」「日本海」など地域を特定する言葉の使用は避ける。
- ②キャラクターコスチュームデザイン
大会キャラクター「んだッチ」の大会専用コスチュームデザインのカラースタイル画
※ 大会の開催趣旨を踏まえるとともに、秋田県の水産業をイメージさせるデザイン。
- 4 応募資格 秋田県内在住の小学生以上の方（団体での応募も可）
- 5 応募方法 はがき、封書（広報ちらし裏面活用）のほか、県ホームページからの応募とする。
- 6 募集期間 平成29年第1回実行委員会終了後からその2カ月後まで
- 7 審査・発表・表彰
有識者による選考を経て、実行委員会において以下の入賞作品を決定し、最優秀賞作品を大会テーマ及びキャラクターコスチュームデザインとする。県のホームページに掲載するほか、入賞者（団体）に通知する。
入賞者（団体）には、賞状と副賞を贈呈する。
○最優秀賞 1点 記念品（3万円程度＋県産水産加工品）
○優秀賞 3点 記念品（1万円程度＋県産水産加工品）
○佳作 5点 記念品（5千円程度＋県産水産加工品）
- 8 周知方法 県内小・中・高校生を対象にチラシ配布のほか、県広報誌や広報番組、県HPにより周知する。

第39回全国豊かな海づくり大会

開催候補地の絞り込み(案)について

1 開催候補地の選定条件 (注) 下線部の項目は、優先事項

(1) 共通事項

- ① 豊かな海づくり大会であることに鑑み、日本海沿岸の6市2町から選定する。
- ② アクセシビリティやスケールメリットを考慮し、式典と放流は、同一市町村を原則とする。
- ③ マンパワーや予算措置など、県と協力体制を密接に構築できる市町村での開催を原則とする。
- ④ 式典会場は、公的施設の会館、体育館等（学校施設を除く）とする。
- ⑤ 海上歓迎・放流会場は、港湾（能代、船川、秋田、本荘）か県管理の漁港（岩館、八森、北浦、島、椿、平沢、金浦、象潟）とする。
- ⑥ 県内の主要交通機関から会場等までのアクセスが容易なこと。
- ⑦ 会場が、地震や津波等に対して安全であること（最新の防災計画が策定されていること）。
- ⑧ 会場との間の移動時間距離が、できるだけ短いこと。

(2) 式典会場候補

1) 会場の立地及び収容能力

- ① 公道から会場出入口までのアプローチ用道路があること。
- ② 会場の出入口は、屋根付きであることが望ましい。
- ③ 音楽隊席と、報道及び音響・照明・映像等オペレーション席とを除く招待者の収容能力が1,000席以上であること。

2) 舞台設備

- ① 式典を行う十分なステージを有することが望ましい。
- ② 招待者席とは別に、音楽隊席と報道及び音響・照明・映像等オペレーション席が確保できること。

3) 控え室

- ① 受賞者お声掛け用やSVIP用、宮内庁用、皇室記者用、警備用、出演者用など、最低10室程度の控え室が確保できること。

4) 駐車場

- ① 駐車場規模は、普通車300台とバス35台以上とする。
上記に満たない場合、シャトルバスを運行できる十分な旋回スペース等を有すること。
- ② 会場正面玄関の向かいに、SVIP用等の駐車スペースがあること（普通車20台、バス5台程度）。
- ③ SVIP用車や報道記者バスなど、特別車両の駐車区画が100台以上確保できること。
- ④ 招待者用や出演者用、スタッフ用の大型バスの駐車区画が50台以上確保できること。
- ⑤ 出演者用やスタッフ用の一般車両の駐車区画が200台以上確保できること。

5) その他

- ① 会場の正面玄関前又は会場ロビーで、金属探知機や荷物預り所を設置できる十分なスペースがあること。
- ② 大型バス等車両が安全に運行でき、会場の周辺環境に悪影響を与えないこと。
- ③ SVIP等と一般参加者の動線が、分離できること。

(3) 海上歓迎・放流会場候補

1) 会場の立地及び収容能力

- ① 屋外の放流及び屋内の昼食時の招待者収容スペースが、500席以上確保できること。
- ② 御放流所や音楽隊演奏、伝統芸能の歓迎演技の十分なスペースが、0.3ha以上取れること。
- ③ 公道や外海からのアクセスを管理しやすいなど、出入り管理が容易であること。

2) 港内の漁船パレードに関する物理的条件

- ① パレードに参加する漁船等が、容易に集結できる立地であること。
- ② 10隻程度の漁船等が待機してからパレードできる港内の停泊地の広さが、10ha以上であること。
- ③ 大型漁船が停泊できる喫水が確保できること。
- ④ 漁船パレードが円滑に実施できる出入口の間口が十分であること。
- ⑤ 港内の航路の線形と航路上の支障物、周辺景観など、漁船パレードや招待者の観覧に対して支障がないこと。
- ⑥ 船舶の航行上、港内の堆砂が支障とならないこと。

3) 入出場の管理

- ① 大型バスの乗降場と旋回所が、出入口の近辺に0.3ha以上設置できること。
- ② 駐車場規模は、普通車150台とバス約20台以上確保できること。
- ③ 荷物預かり所や入場チェックゲート(金属探知機等)など、放流場所の近くにスペースを確保できること。

4) その他

- ① セキュリティレベルに基づく分離の可能な動線と広さを確保できること。
- ② 歩車道分離など、歩行者と車両の安全が確保できること。
- ③ 海の豊かさを実感できる眺望であること。

(4) 関連行事会場の候補地

- ① 出展やステージ出演、体験コーナー、物販、飲食、大型映像等による観覧など、十分な広さを確保できること。
- ② 集客が容易であること。
- ③ 数万人規模の参加に耐えるアクセシビリティが確保できること(駐車スペースの確保又は主要交通機関の利用が容易であること)。
- ④ 開催市町の全面的な協力が得られること。